

**製品名:** カゼインキナーゼ II $\alpha$  (リン酸化 Tyr255) ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab04361

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	45kDa

## 抗原情報

遺伝子名	CSNK2A1
別名	CSNK2A1; CK2A1; Casein kinase II subunit alpha; CK II alpha
遺伝子 ID	1457.0
SwissProt ID	P68400
免疫原	抗血清は、ヒトカゼインキナーゼ II アルファの Tyr255 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

## 背景

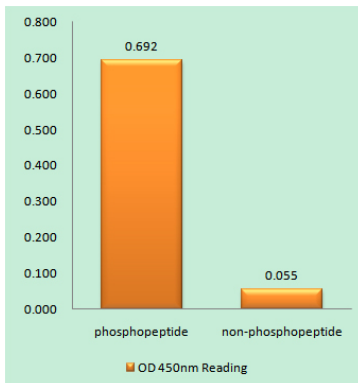
カゼインキナーゼ II は、カゼインなどの酸性タンパク質をリン酸化させるセリン/スレオニンプロテインキナーゼです。細胞周期制

御、アポトーシス、概日リズムなど、様々な細胞プロセスに関与しています。このキナーゼは四量体として存在し、 $\alpha$ サブユニット、 $\alpha$ プライムサブユニット、および2つの $\beta$ サブユニットで構成されています。 $\alpha$ サブユニットは触媒活性を有し、 $\beta$ サブユニットは自己リン酸化を受けます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は $\alpha$ サブユニットです。この遺伝子は20番染色体上に存在しますが、関連する転写擬遺伝子が11番染色体上に存在します。この遺伝子には、2つの異なるタンパク質をコードする3つの転写バリエーションが分かっています。[RefSeq 提供、2014年7月]触媒活性:  $\text{ATP} + \text{タンパク質} = \text{ADP} + \text{リン酸化タンパク質}$ 。機能: カゼインキナーゼは、カゼインなどの酸性タンパク質を基質として優先的に利用することで機能的に定義されます。 $\alpha$ 鎖と $\alpha'$ 鎖には触媒部位が含まれます。Wntシグナル伝達に関与します。CK2は、紫外線照射後にp53/TP53の「Ser-392」をリン酸化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。CK2サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット:  $\alpha$ 鎖、 $\alpha'$ 鎖、および2つの $\beta$ 鎖で構成される4量体。SSRP1、SUPT16H、CSNK2A1、CSNK2A2、CSNK2BからなるCK2-SPT16-SSRP1複合体の構成因子でもあり、この複合体は紫外線照射後に会合する。RNPS1と相互作用する。

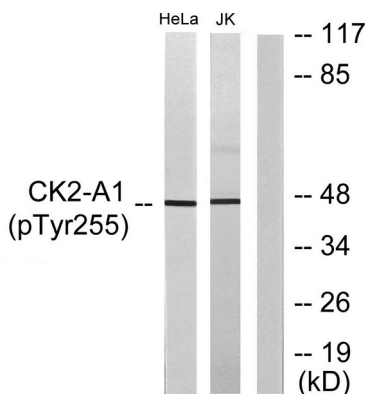
## 研究分野

WNT;WNT-T 細胞接着接合部;接着接合部;

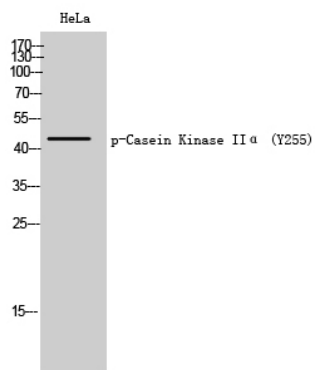
## 画像データ



カゼインキナーゼ II アルファ (リン酸化 Tyr255) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



HeLa 細胞および Jurkat 細胞のライセートを、カゼインキナーゼ II アルファ (リン酸化 Tyr255) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホカゼインキナーゼ II $\alpha$  (Y255) ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウエスタンブロット解析。